

にして解決する機械ができているから  
といって、頭も心も使うことを忘れて  
いいということだろうか。

人間生活が豊かになった現在だから  
こそ、創造の原点として、身体生活を  
通した体験をぜひにと思うのである。  
(会津少年自然の家指導主事)

## 夏、あれこれ

村越 ちよ



にわか雨でも降ってくれば、むしろ  
暑さも少しはやわらぐのではないかと、  
遠く安達太良山の白くわき上る人道雲  
をみあげるひと時。

連日の暑さのなかで、あれもこれも  
と気ばかりあせるこのごろですが、夏  
になるといつも想い出し、一つのはげ  
みになっていることがあります。それ  
は、通信教育の夏季スクーリングのこ  
とです。若さと経験のなさのため、同  
僚の迷惑も考えず、四年間も毎年受講  
したのです。私の無理を気持よく受け  
入れてくれた上司や同僚に感謝の気持  
でいっぱいです。

焼けつくような夏の太陽の下で体育  
実技をしたこと。昼食もそこそこに教  
室移動のために走ったこと。暑さと寝  
むけ予防にレモンをかじったこと。遠  
く北海道や北陸、九州の友達という  
話のできたこと。当時辛かったこと  
も今では楽しい思い出となっておりま  
す。

連日の猛暑と都会の騒々しさと、自  
分の体力のなさ、能力のなさに苦しみ  
何度挫折しかかったかおぼろげに。そ  
のたびに多くの人たちに勇気づけられ  
励まされたのです。

盲目の人が介護者を伴って受講して  
いる姿、胸がジーンと熱くなるものが  
ありました。幼な子をつれての女性。  
郷里に残してきた幼児や奥様の写真を  
胸にはげんでいる人。退職してまで  
受講し、終れば職さがしをしなければ  
ならない人。沖繩から一年間の貯金を  
はたいて受講にきた人。人。私の  
遊び半分の気持がはずかしく、情けな  
くなったことを忘れることができませ  
ん。自ら苦難に向っては何げんでいる人  
たちの大勢いるということ。目標に向  
って精いっぱい努力している人たちの  
生気あふれる姿を見、話を聞き、どん  
なにはげみになったことでしょうか。  
日々の仕事は、とかくマンネリに陥  
り、時の流れのままになりがちですが、  
あのスクーリングの時の殺人的な暑さ  
と精神的・肉体的な苦痛を思うと、も  
っと勉強をし、努力もしなければと、  
自ら勇気づけているのです。

仕事といえば、父が来客と話をして  
いるのを何気なく聞いた一言も、一寸  
した話ですが、なぜか忘れられず、ず  
っと仕事上の一つの指針になっており  
ました。それは「今まで仕事をやって  
いく上で、自分で判断しなければなら  
ない立場になった場合、上司だったら  
どのようにしたであろうか。というこ  
とを常に頭に入れていた」という意味  
のことです。

これと全く同じことを、最近ある本  
で読みました。人や年齢、立場には関  
係ないことだとおどろき、改めて感心  
しました。それはヤンマーディーゼル  
株式会社社長の社長山岡淳男氏が書いて  
いたものです。彼は、父・兄の相つぐ死  
亡により三十八歳の若さで会社を継ぐ  
ようになったそうです。全国に数十の  
支店を持ち、実績のある一つの企業を  
継いで、すべての決裁をしなければな  
らなくなったのです。そのときの判断  
の一つに「こんなとき父だったらどう  
するか？兄だったらどうしただろう  
か」と常に考えて行なったそうです。

山岡社長・父・私と仕事の内容や立  
場こそちがえ、仕事をする上で、共通  
するものではないかと思うのです。

私たちの仕事は一人でできるもので  
はありません。あらゆる方向に気をく  
ばり、時には同僚の意見を聞き、「上  
司だったらどう判断するだろうか」と  
常に考えて仕事を行うべきだと思っ  
ています。最終的に決裁を受ける場合、自  
分の行ったやりかたが最良だったかど

うか、もっと良い方法があったのでは  
ないかと、常に考え、向上の精神を持  
つべきだと思うのです。

広大な敷地とすばらしい自然環境に  
めぐまれたこの学校で楽しく仕事の  
できることは、大変幸せなことだと思  
うのです。

冬は寒く、夏はまた最高にむし暑い  
この事務室です。朝から電話が鳴り、  
来客のとりつきや、先生がたや生徒の  
応待に、またソロバンをはじき、ペ  
ンを走らせながら、探求の精神を忘れず、  
常に前進の姿勢で仕事をしたと思っ  
ております。

(郡山北工業高等学校副主査)

